

職業情報提供サイト（job tag）

支援者向け活用ガイド

Ver 4.0

厚生労働省職業安定局

目次

はじめに	2
1. 本資料の構造	3
1. 1 課題と対策一覧	4
1. 2 本資料の見方	5
1. 3 job tagの機能一覧	6
2. 課題と対策	7
2. 1 キャリア教育	8
2. 1. 1 自己理解	9
2. 1. 2 職業理解	10
2. 1. 3 能力開発	14
2. 2 求職支援	15
2. 2. 1 自己理解	16
2. 2. 2 職業理解	20
2. 2. 3 能力開発	24
2. 2. 4 応募・面接	26
2. 3 能力開発	29
2. 2. 1 自己理解	30
2. 2. 2 職業理解	33
2. 2. 3 能力開発	34
3. 事例	36
3. 1 事例一覧	37
3. 2 事例	38

はじめに

○ 本資料の位置づけ

本資料は、キャリアコンサルタントや需給調整機関の相談員等（以下、「支援者」）が、学生や求職者、自身のキャリアを考える相談者に対して、「職業情報提供サイト（job tag）」を活用して、相談対応、指導、助言などの支援をする際に参考とするためのガイドとして作成されました。

○ 職業情報提供サイト（job tag）とは

「職業情報提供サイト（job tag）」（以下、「job tag」）は、500を超える職業について、どんな仕事なのか、タスク（職業に含まれるこまかな仕事）、就業するのに必要な学歴・資格・実務経験、労働条件（労働時間、賃金など）、就労状況（就労者数、就労者の平均年齢）、しごと能力プロフィール（スキル、知識、仕事に対する興味、仕事に対する価値観など）などを、分かりやすい解説文と数値データで提供しています。また、それぞれの職業を具体的にイメージできる動画を掲載しています。

人口減少下で、企業が成長を続けていくためには、人材採用や人材評価は、従来の「漠然とした印象」や「単線型のキャリアパスを前提」とした考え方によることなく、「ジョブ型雇用」、「コンピテンシー」、「ポータブルスキル」などの客観的な視点による必要があります。「ジョブ型雇用」とは、行うべきタスクが明確なジョブを中心とした雇用、「コンピテンシー」とは、高い成果を上げるための行動特性モデル、「ポータブルスキル」とは、業種や職種が変わっても通用する能力という意味です。

支援者のみなさまが、支援対象者を支援する際にjob tagの職業情報を活用することで、支援対象者に対し網羅的・客観的な職業情報を提供でき、さらに、job tagに搭載されている様々な機能を活用することで、支援対象者に対する自己理解、職業理解、求職活動等をより効果的なものにすることができます。

また、学生や求職者、自身のキャリアを考える方は、求職活動やキャリアの検討において、「どんな仕事があるのだろう」、「〇〇になるには何を学ばばいいのだろう」、「〇〇を活かすにはどんな仕事に就けばいいのだろう」と考えたとき、job tagを活用することで、それらの答えを見つけだし、さらに、自分の適性や、能力に合う未知の職業に出会えるかもしれません。

アクセスしてみよう！



職業情報提供サイト（job tag）
<https://shigoto.mhlw.go.jp/>



1. 本資料の構造

1. 1 課題と対策一覧

本資料では、学生等に対する「キャリア教育」のシーン、求職者に対する「求職支援」のシーン、キャリアアップを目指す相談者に対する「能力開発」のシーンごとに、job tagを活用したキャリアコンサルティングを行う上で、「自己理解」、「職業理解」、「能力開発」、「応募・面接」という4つの課題を設定し、それらに対する対策とその対策で活用できるjob tagの機能を紹介しています。

キャリア教育

求職支援

就労経験なし

就労経験あり

未経験職業希望 経験職業希望

能力開発

課題1 自己理解

対策1	興味や価値観を明確化し、目指す方向を確認する。	キャリア教育 ●●●	求職支援 ●●●	能力開発 ●●●
対策2	経験を棚卸し、能力を整理する。		求職支援 ●●●	能力開発 ●●●
対策3	ポータブルスキル・能力面の特徴を明確化する。		求職支援 ●●●	能力開発 ●●●
対策4	優先して考慮すべきことを整理する。		求職支援 ●●●	

課題2 職業理解

対策1	職業の分類から職業を発見する。	キャリア教育 ●●●	求職支援 ●●●	
対策2	興味・スキル・知識等から職業を発見する。	キャリア教育 ●●●	求職支援 ●●●	
対策3	興味のある職業について知る。	キャリア教育 ●●●	求職支援 ●●●	
対策4	業界・職業間の関連性について知る。	キャリア教育 ●●●	求職支援 ●●●	能力開発 ●●●

課題3 能力開発

対策1	能力の過不足を確認する。	キャリア教育 ●●●	求職支援 ●●●	能力開発 ●●●
対策2	訓練を検索する。		求職支援 ●●●	能力開発 ●●●

課題4 応募・面接

対策1	求人を検索する。		求職支援 ●●●	
対策2	自分の能力等を言語化し、アピールポイントを整理する。		求職支援 ●●●	
対策3	面接時・内定時に必要な情報を確認する。		求職支援 ●●●	

1. 2 本資料の見方

本資料では、「課題」に対する「対策」とjob tagで活用できる機能、その機能を活用する際の工夫点を記載しています。

支援内容（課題）

キャリアコンサルティングにおいて支援者が実施する支援の内容

対策

支援内容に対して実施する内容

対象者

「対策」が有効であると
考えられる対象者（求職
支援のみ）

2. 2. 1 自己理解

対策 1 興味や価値観を明確化し、目指す方向を確認する。

- 就労経験のない方
- 就労経験のある方-未経験職業希望
- 就労経験のある方-経験職業希望

job tagの機能と活用方法

自己診断 職業興味検査

受検者の仕事に対する「興味」の特徴が提示されます。求職者自身の自己認識と合っているかなどを話すことで、自己理解が深まります。また、受検者の「興味」の特徴に類似する職業が提示されます。その中で、どのような職業のこういった内容に興味を持つかを問いかけることで、求職者の興味の方
確認できます。

の仕事に対する「価値観」の特徴が提示され合っているかなどを話すことで、自己理解
価値観」の特徴に類似する職業が提示される
のこういった内容に価値観を感じるかを問い
の方向性を確認できます。

職業情報 職業情報

興味のある職業の職業情報ページを複数閲覧し、ど
たところに興味を持つのかを考えることで、興味

job tagの機能名

「対策」を実施するにあたって
活用できるjob tagの機能名

job tagの機能の 活用方法

「対策」を実施するにあ
たつてのjob tagの機能・
活用方法の説明

例) 仕事価値観検査の診断結果画面



支援のポイント 職業興味検査・仕事価値観検査の結果分析

職業興味検査・仕事価値観検査では、「なぜこのような結果となったのか？」を分析していくことで、自己理解を深めることができます。結果が「合っている」、「合っていない」で終わってしまうのではなく、支援の中で下記の対応をすることで自己理解を深めてください。

- 「診断結果」のページを見ながら、過去の経験から思い当たることは無いのか、この紐づけをどう捉えるのか、出てきた職業

画面の例示

job tagの機能の表示の例示

検査結果と類似する職業の一覧が表示されます

支援のポイント

キャリアコンサルティングにおいて支援者が
job tagの機能を活用する際の工夫点

求職支援での使い方 経験・エピソード・実績などとの紐づけ

「職業興味検査」、「仕事価値観検査」の結果と、経験・エピソード・実績などとの紐づけを行う際は、今までの職務経験等の中で、成功したこと、失敗したこと、やりがいを感じた職務、苦手だった職務、やり遂げたことなどを語ってもらい、検査結果と紐づくかどうかを求職者と一緒に分析することで、より深い自己理解に繋がります。

シーンごとの使い方

「キャリア教育」、「求職支援」、「能力開発」のシーンごとの活用方法の例

1. 3 job tagの機能一覧

ホワイト
カラー
職種のみ

job tagには、500以上の職業の職業情報データベースを中心に、様々な機能が搭載されています。以降のページでは、機能を下の図の色分けで表記しています。また、「参考資料」では、自己診断機能、能力分析機能等について画面や機能の解説をしているので、参考にしてください。

自己診断

職業興味
検査

仕事
価値観
検査

職業適性
テスト
(Gテスト)

しごと
能力プロ
フィール
検査

ポータブル
スキル
見える化
ツール

職業経験の少ない方にもおすすめ

職業検索

仕事の
性質で
検索

仕事の
内容で
検索

スキル・
知識など
で検索

職種
カテゴリ
で検索

産業で
検索

未経験でも
比較的
入りやすい
職業

フリー
ワードで
検索

テーマで
検索

イメージ
検索
(地図)

免許・
資格で
検索

職業分類
で検索

タスクで
検索

賃金・
求人倍率
で検索

職業情報

職業情報データベース



職業関連図



能力分析

キャリア
分析

職業能力
チェック

求職活動

求職
ガイド

労働法の
基礎知識

全国最低
賃金一覧

企業向け

人材採用
要件整理

タスク整理

人材活用
シミュレーション

求人ガイド

企業での
活用例

2. 課題と対策

2. 1 キャリア教育

キャリア教育における課題と対策の一覧です。

課題 1 自己理解

対策1 興味や価値観を明確化し、目指す方向を確認する。

課題 2 職業理解

対策1 職業の分類から職業を発見する。

対策2 興味・スキル・知識等から職業を発見する。

対策3 興味のある職業について知る。

対策4 業界・職業間の関連性について知る。

課題 3 能力開発

対策1 能力の過不足を確認する。

2. 1. 1 自己理解

対策 1 興味や価値観を明確化し、目指す方向を確認する。

job tagの機能と活用方法

自己
診断

職業興味検査

受検者の仕事に対する「興味」の特徴が提示されます。学生・生徒自身の自己認識と合っているかなどを話すことで、自己理解が深まります。また、受検者の「興味」の特徴に類似する職業が提示されます。その中で、どのような職業のこういった内容に興味を持つかを問いかけることで、学生・生徒の興味の方向性を確認できます。

自己
診断

仕事価値観検査

受検者の仕事に対する「価値観」の特徴が提示されます。学生・生徒自身の自己認識と合っているかなどを話すことで、自己理解が深まります。また、受検者の「価値観」の特徴に類似する職業が提示されます。その中で、どのような職業のこういった内容に価値観を感じるかを問いかけることで、学生・生徒の価値観の方向性を確認できます。

職業
情報

職業情報

興味のある職業の職業情報ページを複数閲覧し、こういった職業のこういったところに興味を持つのかを考えることで、興味の方向性を整理できます。

例) 仕事価値観検査の診断結果画面



検査結果と類似する職業の一覧が表示されます

支援のポイント 職業興味検査・仕事価値観検査の結果分析

職業興味検査・仕事価値観検査では、「なぜこのような結果となったのか？」を分析していくことで、自己理解を深めることができます。結果が「合っている」、「合っていない」で終わってしまうのではなく、支援の中で下記の対応をすることで自己理解に繋げてください。

- 「診断結果」のページを見ながら、過去の経験から思い当たることはないかという質問をし、**経験・エピソード・実績などとの紐づけ**を行う。
- 出てきた職業との**共通点**を探っていく。

キャリア教育での使い方 経験・エピソード・実績などとの紐づけ

「職業興味検査」、「仕事価値観検査」の結果と、経験・エピソード・実績などとの紐づけを行う際は、今までの学校や生活の中での、得意な教科、苦手な教科、好きだった活動、苦手だった活動、部活動での役割、アルバイトで褒められたこと、失敗したことなどを語ってもらい、検査結果と紐づくかどうかを学生・生徒と一緒に分析することで、より深い自己理解に繋がります。

2. 1. 2 職業理解

対策1 職業の分類から職業を発見する。

希望する職業や仕事が決まっていない方向け

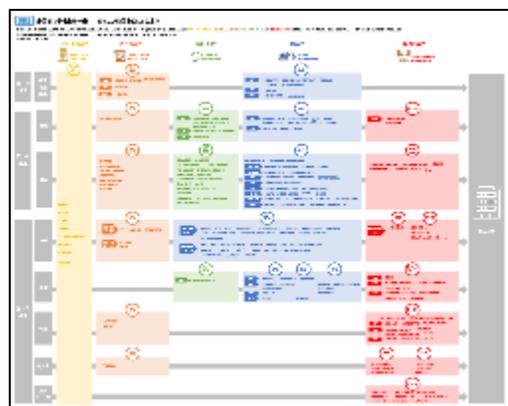
job tagの機能と活用方法

職業検索	未経験でも比較的入りやすい職業	未経験でも比較的入りやすい職業を種類ごとに探すことができます。
職業情報	関連図	「B to B（企業間取引）」では、普段の生活の中で目にしない職業を探することができます。産業とエンドユーザに商品やサービスが届くまでの流れに沿って職業がマップされており、「B to B職種関連図」からPDFをダウンロードすることでB to Bの職業を一覧できます。
職業検索	テーマで検索	「コンピュータ・ITの仕事」、「自然を探る」などのテーマに関連する職業を探することができます。
職業検索	イメージ検索（地図）	地図のイラストから、場所を選択することで、その場所で仕事をする職業を探することができます。
職業検索	賃金・求人倍率で検索	都道府県別に、賃金や有効求人倍率から希望する条件の職業を探することができます。

イメージ検索（地図）



B to B（企業間取引）



ある程度希望する職業や仕事が決まっている方向け

job tagの機能と活用方法

職業情報	関連図	「IT・通信」、「介護」、「事務」、「営業」、「金融」、「医療・看護」、「B to C（消費者取引）」、「土木・建築」では、各業界・職種に関する説明と、関連する職業を俯瞰した形で提示します。各業界・職種ページの「関連図」はPDFをダウンロードすることができます。
職業検索	職種カテゴリーで検索	職種カテゴリーの「大分類」、「中分類」を選択することで、体系的に職業を探することができます。
職業検索	産業で検索	日本標準産業分類の「大分類」、「中分類/小分類」を選択することで、体系的に職業を探することができます。
職業検索	職業分類で検索	厚生労働省編職業分類の「大分類」、「中分類/小分類」を選択することで、体系的に職業を探することができます。

2. 1. 2 職業理解

対策2 興味・スキル・知識等から職業を発見する。

活かしたいスキルや苦手な仕事の内容等がある方向け

job tagの機能と活用方法

職業 検索	スキル・知識などで検索	「強みとなるスキル・知識・アビリティ」、「不足しているスキル・知識・アビリティ」を選択することで、持っているスキル・知識・アビリティに合った職業を探すことができます。
職業 検索	免許・資格で検索	持っている免許・資格を選択することで、その免許・資格に関連する職業を探すことができます。
職業 検索	仕事の性質で検索	「対人関係」、「身体・物理的制約」、「その他の特性」に分けられた37の「仕事の性質」のうち、「重視する仕事の性質」、「できるだけ避けたい仕事の性質」、「避けたい仕事の性質」を選択することで、学生・生徒の求める仕事の性質に合った職業を探すことができます。
職業 検索	仕事の内容で検索	「情報やデータの収集・把握」、「人とかかわる、指導・管理」、「分析・判断・想像・計画」、「身体活動・機器操作」に分けられた41の「仕事の内容」のうち、「得意とする仕事の内容」、「苦手とする仕事の内容」を選択し、学生・生徒の得意・不得意に合った職業を探すことができます。
職業 検索	タスクで検索	アルバイト等で経験のあるタスクや、やってみたいタスクのキーワードを入力することで、タスクから職業を探すことができます。
自己 診断	しごと能力プロフィール	受検者の「しごと能力プロフィール」の値に近い職業を探すことができます。「スキル」、「知識」、「興味」、「仕事価値観」、「仕事の性質」、「アビリティ」の1つ以上の数値を設定し、設定したものを選択することで職業を検索してください。

興味や能力面の特徴から職業を探したい方向け

job tagの機能と活用方法

自己 診断	職業興味検査	受検者の仕事に対する「興味」の特徴が提示され、その「興味」に類似した職業を探すことができます。
自己 診断	仕事価値観検査	受検者の仕事に対する「価値観」の特徴が提示され、その「価値観」に類似した職業を探すことができます。
自己 診断	職業適性テスト (Gテスト)	受検者の「能力面の特徴」が提示され、その「能力面の特徴」に類似した職業グループから職業を探すことができます。

キャリア教育での使い方 「免許・資格で検索」機能の活用方法

「免許・資格で検索」の機能では、免許・資格が体系的に整理され検索できるようになっているため、持っている資格がなくても、検索してみることでどういった分野にどういった資格があるのか、さらにそれらの免許・資格はどういった職業に活かせるのかということを知ることができ、勉強する免許・資格を選ぶことにも役立ちます。

2. 1. 2 職業理解

対策3 興味のある職業について知る。

job tagの機能と活用方法

職業情報

職業情報

職業について、「どんな仕事?」、「就業するには?」、「労働条件の特徴」、「しごと能力プロフィール」、「類似する職業」、「関連リンク」の情報を知ることができます。興味のある職業を複数調べ、その内容を比較することで職業理解が深まります。

例) どんな仕事?

「どんな仕事?」では、各職業の仕事内容が説明され、青い文字の専門用語はカーソルをポイントすることで解説が表示されます。

どんな仕事?

住宅・学校・オフィスビル・工場などの建築現場において、施工が正確かつ計画通りに行われるよう建築工事の監督・指導を行う。

施工図を基に、使用する機材や必要な作業員の人数、工期などを検討し、詳細な施工計画を立てる。建築工事には様々な職種の種類が下請に入るため、これらの選定、工事費や工期の調整を行う。

工事開始後は進捗状況を常に把握し、工事の品質を確認しながら必要な指示を行う。また、施工に当たっては、事故や労働災害がないように配慮が必要であるため、工事を行う段階や作業方法を事前に検討し、作業員の教育を行うなど適切な安全管理を行う。工事中は騒音・振動など近隣に悪い影響を与えないように十分に留意し、必要な場合は調整を行うこともある。工事終了後は所定の手続きを行い、建築物を発注者に引き渡す。



「どんな仕事?」では、各職業について90秒程度の説明動画を閲覧できます。

例) 就業するには?

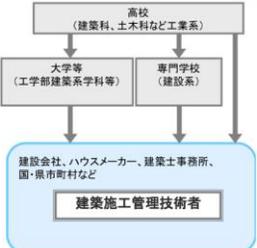
就業するには?

入職にあたって、特に学歴や資格は必要とされないが、高校、専門学校、大学で建築系の学問を専攻し、構造力学、建築材料などの知識を習得してから入職するのが一般的である。

建築現場で施工管理を行うには、建築学の知識に加えて、建築法をはじめとして道路交通関係、公害防止関係、危険物関係の法令など施工管理にかかわる法令や、工事を安全に行うための労働基準法、労働安全衛生法など労働関係法令についての知識も必要となる。

関係する資格には「建築施工管理士」と「施工士」（建設部）があるが、資格を取得している又は、一定の実務経験を積むと、大規模な現場に配置が義務付けられている監理技術者になることができる。

数十人から数百人の様々な職種の作業員を指揮し監督するため、指揮力、統率力、協調性と強い意志が求められる。また、予想外の施工上の問題点や事故、災害などが発生する可能性もあるため、物事を冷静に考えて考える習慣や、突発的な問題が生じた時冷静に対応できる能力、先を読む力が要求される。屋外での作業が多いため、一定の体力も必要である。



「就業するには?」では、一般的な入職ルートや必要な免許や訓練、関連資格などが説明と図解されています。

「しごとと能力プロフィール」では、「スキル」、「知識」、「興味」、「仕事価値観」、「仕事の性質」、「アビリティ」の各項目を、職業横断的に数値化しており、他の職業との比較が可能です。

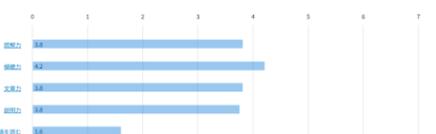
例) しごとと能力プロフィール

しごとと能力プロフィール

自分めしごと能力プロフィールと比較

スキル | 知識 | 興味 | 仕事価値観 | 仕事の性質 | アビリティ | 各数値の詳細解説ページ

この職業の「しごとと能力」プロフィール | この職業に類似のない「しごとと能力」プロフィール



項目名にカーソルをポイントすることで解説が表示されます。

例) 統計データ

統計データ

建築施工管理技術者が属する主な職業分類（厚生労働省職業分類の「建築施工管理技術者」等）に対応する統計情報です。

「統計データ」は、必ずしもその職業のみが対象のデータを示しているものではありません。統計データで集約されている職業分類の名称については[職業分類の名称](#)をご覧ください。

※統計データに関するお問い合わせは[お問い合わせ](#)をご覧ください。

※就職調停費が就業履歴を以てしている場合は「労働条件の特徴」本文に記載されていることとなります。

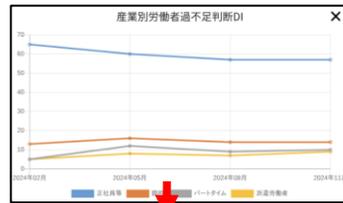
就業部

就業部統計データ

就業部	就業人数	労働時間
全国	242,580 人	170 時間
東京都	34,190 人	167 時間
就業部	賃金(年収)	年齢
全国	632.8 万円	43.5 歳
東京都	713.5 万円	43.4 歳

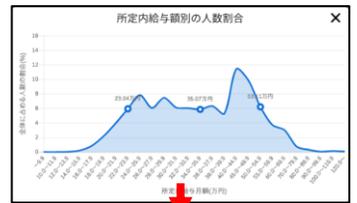
「労働条件の特徴」の統計データでは、その職業の就業者数、労働時間、賃金、年齢、有効求人倍率等を都道府県別に確認できます。

例) 労働者過不足判断



「労働条件の特徴」の産業景況データでは、その職業が属する産業大分類の労働者過不足判断、法人企業景況予測をグラフで確認できます。

例) 所定内給与別の人数割合



「賃金分布(グラフ)」では、その職業の所定内給与別の人数分布、年齢別の年収分布をグラフで確認できます。

各項目の内容や数値については「各数値の詳細解説ページはこちら」から詳細を確認できます。

2. 1. 2 職業理解

対策4 業界・職業間の関連性について知る。

job tagの機能と活用方法

<p>職業情報</p> <p>関連図</p>	<p>「B to B（企業間取引）」、「IT・通信」、「介護」、「事務」、「営業」、「金融」、「医療・看護」、「B to C（消費者取引）」、「土木・建築」では、各業界・職種に関する説明と、関連する職業を俯瞰した形で提示します。各業界・職種ページの「関連図」はPDFをダウンロードすることができます。興味のある業界・職種のページを読むことで、業界・職種への知識を深めることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>職種カテゴリーで検索</p>	<p>職種カテゴリーの「大分類」、「中分類」を選択することで、体系的に職業を提示できます。興味のある職業がどの職種カテゴリーに属しているのか、同じ職種カテゴリーには他にどのような職業があるのかを知ることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>産業で検索</p>	<p>日本標準産業分類の「大分類」「中分類/小分類」を選択することで、体系的に職業を提示できます。興味のある職業がどの産業に属しているのか、同じ産業には他にどのような職業があるのかを知ることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>職業分類で検索</p>	<p>厚生労働省編職業分類の「大分類」「中分類/小分類」を選択することで、体系的に職業を提示できます。興味のある職業がどの職種分類に属しているのか、同じ職種分類には他にどのような職業があるのかを知ることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>イメージ検索（地図）</p>	<p>地図のイラストから、場所を選択することで、その場所で仕事をする職業を提示できます。働いてみたい「場所」にはどのような職業があるのかを知ることができます。</p>

事務関連職業の関連図

関連図

事務関連職業の種類（業種別）

業種の仕事についてまとめたPDFファイルを右下の図からダウンロードできます。PDFファイルに載っている職業名からその職業の詳細ページを表示することもできます。

事務関連職業の種類

3-1 事務系

3-2 事務系

事務関連職業の種類

業種の仕事についてまとめたPDFファイルを右下の図からダウンロードできます。PDFファイルに載っている職業名からその職業の詳細ページを表示することもできます。

「関連図」の図をクリックするとPDFファイルが表示され、その中の職業名をクリックすると職業情報ページにリンクします。

2. 1. 3 能力開発

対策1 能力の過不足を確認する。

job tagの機能と活用方法

能力
開発

キャリア分析

これまでの経験から「スキル」、「知識」、「興味」、「仕事価値観」、「仕事の性質」、「アビリティ」についての「しごと能力プロフィール」を作成し、希望する職業との適合度（「強みとなるスキル・知識」、「これから習得・向上するとよいスキル・知識」、「適合度の高い職業」、「関連資格」、「どのようなスキル等がどの程度必要か」など）を提示します。

「しごと能力プロフィール」作成時には、今までの経験を思い出しながら数値を設定してください。

「キャリア分析結果」画面の「分析結果詳細」のグラフでは、希望職種の数値より学生・生徒の数値の方が高いものは希望職種で活かせるスキル・知識等であり、希望職種の数値より学生・生徒の数値の方が低いものは希望職種に就くために不足している可能性のあるスキル・知識等であることが分かります。

不足しているスキル・知識等がある場合には、「関連資格」取得の検討や、「訓練検索」で訓練の検討を行うことができます。

能力
開発

職業能力チェック

ホワイトカラー職種について、経験した職種・レベルの職業能力評価基準の各項目に対し、「一人でできている」、「ほぼ一人でできている」、「できていない」をチェックすることで、できていない項目を明確化し能力開発に繋げることができます。

キャリア分析の結果画面

キャリア分析結果

あなたの「しごと能力」プロフィールと希望する職業の「しごと能力」プロフィールとの分析結果です。

希望する職業
経理事務
経験した職業：一般事務

求人情報を検索したい方はこちらから。

強みとなる素養
 外国語を扱う | コンピュータと電子工学 | 外国語を聞く | 外国語で話す | 保守点検

これから習得・向上するとよい素養
 顧客管理 | 経済学・会計学 | 数字的素養 | 継続的観察と評価 | 他者との調整 | 企業・組織の活動の計画 | 企業・組織の活動の分析 | 自律的な意思決定 | 説明 | 道具、機器、設備の選択

適合度の高い職業

関連資格
 自動車運転 | 自動車整備 | 自動車検定 | 簿記検定(1級) | 簿記検定(2級) | 簿記検定(3級) | 簿記検定(4級) | 簿記検定(5級) | 簿記検定(6級) | 簿記検定(7級) | 簿記検定(8級) | 簿記検定(9級) | 簿記検定(10級)

希望する職業に必要な職業スキルや知識などの訓練コースや講座を探したい方はこちらから。

ジョブカードを利用してキャリアを管理したい方は [こちら](#) (ジョブカードをまとめたデジタルジョブカードへのリンクがあります。)



2. 2 求職支援

求職支援における課題と対策の一覧です。

● : 各対象者に有効だと考えられる対策

		対象者	
就労経験 のない方		就労経験のある方	
		未経験 職業希望	経験 職業希望

課題 1 自己理解

対策1	興味や価値観を明確化し、目指す方向を確認する。	●	●	●
対策2	経験を棚卸し、能力を整理する。		●	●
対策3	ポータブルスキルを明確化する。		●	●
対策4	優先して考慮すべきことを整理する。	●	●	●

課題 2 職業理解

対策1	職業の分類から職業を発見する。	●	●	
対策2	興味・スキル・知識等から職業を発見する。	●	●	
対策3	興味のある職業について知る。	●	●	
対策4	業界・職業間の関連性について知る。	●	●	●

課題 3 能力開発

対策1	能力の過不足を確認する。	●	●	●
対策2	訓練を検索する。	●	●	●

課題 4 応募・面接

対策1	求人を検索する。	●	●	●
対策2	自分の能力等を言語化し、アピールポイントを整理する。	●	●	●
対策3	面接時・内定時に必要な情報を確認する。	●	●	●

2. 2. 1 自己理解

対策1 興味や価値観を明確化し、目指す方向を確認する。

- 👉 就労経験のない方
- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望
- 👉 就労経験のある方-経験職業希望

job tagの機能と活用方法

<p>自己診断 職業興味検査</p>	<p>受検者の仕事に対する「興味」の特徴が提示されます。求職者自身の自己認識と合っているかなどを話すことで、自己理解が深まります。また、受検者の「興味」の特徴に類似する職業が提示されます。その中で、どのような職業のこういった内容に興味を持つかを問いかけることで、求職者の興味の方向性を確認できます。</p>
<p>自己診断 仕事価値観検査</p>	<p>受検者の仕事に対する「価値観」の特徴が提示されます。求職者自身の自己認識と合っているかなどを話すことで、自己理解が深まります。また、受検者の「価値観」の特徴に類似する職業が提示されます。その中で、どのような職業のこういった内容に価値観を感じるかを問いかけることで、求職者の価値観の方向性を確認できます。</p>
<p>職業情報 職業情報</p>	<p>興味のある職業の職業情報ページを複数閲覧し、こういった職業のこういったところに興味を持つのかを考えることで、興味の方向性を整理できます。</p>

例) 仕事価値観検査の診断結果画面



検査結果と類似する職業の一覧が表示されます

支援のポイント 職業興味検査・仕事価値観検査の結果分析

職業興味検査・仕事価値観検査では、「なぜこのような結果となったのか？」を分析していくことで、自己理解を深めることができます。結果が「合っている」、「合っていない」で終わってしまうのではなく、支援の中で下記の対応をすることで自己理解に繋げてください。

- 「診断結果」のページを見ながら、過去の経験から思い当たることはないかという質問をし、**経験・エピソード・実績などとの紐づけ**を行う。
- 出てきた職業との**共通点**を探っていく。

求職支援での使い方 経験・エピソード・実績などとの紐づけ

「職業興味検査」、「仕事価値観検査」の結果と、経験・エピソード・実績などとの紐づけを行う際は、今までの職務経験等の中で、成功したこと、失敗したこと、やりがいを感じた職務、苦手だった職務、やり遂げたことなどを語ってもらい、検査結果と紐づくかどうかを求職者と一緒に分析することで、より深い自己理解に繋がります。

2. 2. 1 自己理解

対策2 経験を棚卸し、能力を整理する。

- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望
- 👉 就労経験のある方-経験職業希望

job tagの機能と活用方法

<p>職業情報</p> <p>職業情報</p>	<p>経験した職業のページの「どんな仕事?」、「動画」、「タスク」、「仕事の内容」などを見ながら経験してきたことを話してもらうことで、経験の棚卸ができます。忘れていたことなども思い出すことができ、整理していく作業は求職者の自信に繋がります。また、それらの経験を「しごと能力プロフィール」の「スキル」や「知識」などに紐づけることで、経験を能力として整理できます。</p>
<p>求職活動</p> <p>求職ガイド</p>	<p>「ワークシート3 職務経歴」、「ワークシート4 職務以外の経験」、「ワークシート5 保有するスキル・能力①」、「ワークシート6 保有するスキル・能力②」に経験を記入していくことで、経験の棚卸やスキル・能力の整理ができます。</p>
<p>自己診断</p> <p>しごと能力プロフィール</p>	<p>受検者の「しごと能力プロフィール」を作成することで、自身のスキル・知識などの能力を整理できます。経験してきたことを振り返りながら、各項目の数値をどのように設定するかを考えることで、裏付けのあるしごと能力プロフィールが作成できます。すべての項目を整理するのが難しい場合には、「スキル」のみ、「仕事の性質」のみなど対象を絞って活用してください。</p>
<p>能力開発</p> <p>職業能力チェック</p>	<p>ホワイトカラー職種について、できること、これからできるようにしていく必要があることを確認できます。経験した職種・レベルの職業能力評価基準の各項目に対し、「一人でできている」、「ほぼ一人でできている」、「できていない」をチェックすることで、経験の棚卸に役立ちます。</p>

支援のポイント 求職ガイドの「ワークシート」

求職ガイドには、求職活動において検討する事項を書き込んで整理できる14種類の「ワークシート」が添付されています。求職者の状況に合わせて必要なシートを活用してください。job tagと連動した使い方は、求職ガイドに記載されています。

ワークシート1 求職活動の背景・目的	ワークシート8 業界研究
ワークシート2 求職活動に関わるイベント	ワークシート9 興味・関心のある職業の労働条件
ワークシート3 職務経歴	ワークシート10 希望する職業と労働条件
ワークシート4 職務以外の経験	ワークシート11 不足している能力の整理
ワークシート5 保有するスキル・能力①	ワークシート12 訓練情報
ワークシート6 保有するスキル・能力②	ワークシート13 企業研究
ワークシート7 アピールポイント	ワークシート14 自己PRと志望動機

2. 2. 1 自己理解

対策3 ポータブルスキル・能力面の特徴を明確化する。

- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望
- 👉 就労経験のある方-経験職業希望

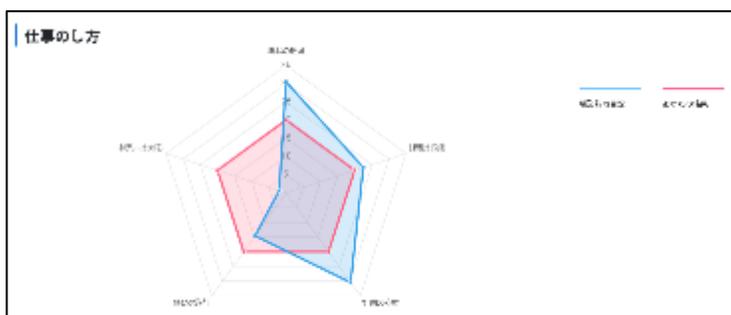
job tagの機能と活用方法

自己
診断

ポータブルスキル 見える化ツール

受検者のポータブルスキルと、その値に類似する5つの職務・職位のポータブルスキルがレーダーチャートで比較できます。「あなたの結果」のレーダーチャートの各項目を確認することで、求職者のポータブルスキルについての強み・弱みを明確化でき、なぜその数値になったのかを今までの経験と紐づけることで、自己理解に繋がります。

例) ポータブルスキル見える化ツールの診断結果に表示されるレーダーチャート



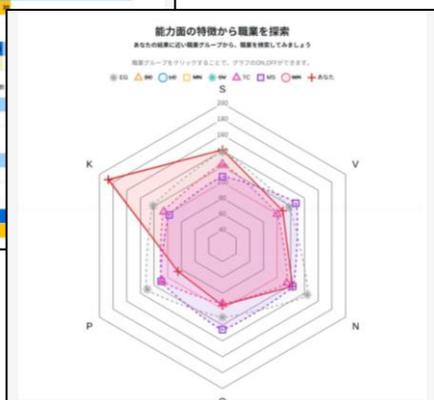
job tagの機能と活用方法

自己
診断

職業適性テスト (Gテスト)

6つの検査を受けると、「解答結果」、「能力面の特徴から職業を探索」、「あなたの結果に近い職業グループと含まれる職業例」が表示され、あなたの能力面の特徴に近い職業を検索することができます。

例) 職業適性テスト (Gテスト) の結果画面



検査結果と類似する職業の一覧が表示されます

2. 2. 1 自己理解

対策4 優先して考慮すべきことを整理する。

- 👉 就労経験のない方
- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望
- 👉 就労経験のある方-経験職業希望

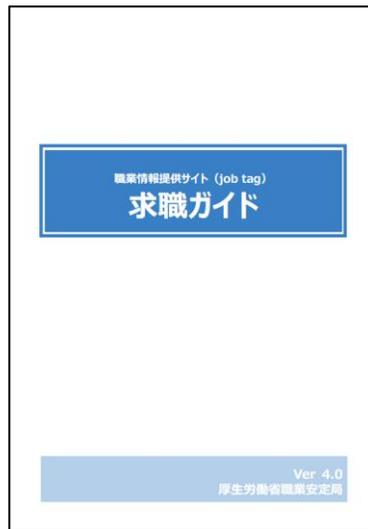
job tagの機能と活用方法

求職活動

求職ガイド

「ワークシート1 背景と目的」、「ワークシート10 希望する職業と労働条件」などに記入していくことで、優先して考慮すべきことを整理できます。

例) 求職ガイドのワークシート



ワークシート1 背景と目的

ワークシート1 求職活動の背景・目的		
・ 求職活動の背景や目的を記入しましょう。		
区分	内容	備考
背景	例. 郡内で法人営業をしてきたが、教育・学習に関わる職業に就きたい。／給料を上げるためにキャリアアップしたい。	
きっかけ	例. 転居を伴う異動の辞令を受けた。／子供ができた。	
目的	例. 子供のころからの夢だった保育士になる。／経験を活かして転動のない会社に転職する。	
条件と理由	例. 条件：残業がない。／転動がない。 理由：保育園の迎えがあるから。／介護のため。	

ワークシート10 希望する職業と労働条件

ワークシート10 希望する職業と労働条件			
・ 希望する職業と労働条件を記入しましょう。			
・ 絶対に譲れない条件には「○」、できれば譲りたくない条件には「△」、譲っても良い条件には「◇」をつけましょう。			
希望する職業と労働条件			
例	職業名 ・医療事務 ○	仕事の内容等 ・医療に関する仕事 ○ ・医療事務実習士の資格が活かせる仕事 ○	
	場所 ・東京都豊川区内 △ ・通勤1時間以内 ○	賃金 月給23万円以上 ○	時間 9:30～17:00
	休日 ・日曜 ○ ・年末年始 △	雇用形態 正社員 (○) がパート	福利厚生 ・社労士制 ○ ・交通費支給 ○
	転職 多少は困難なし △	転動 高方は不可 ○	その他 子育てとの両立に理解のある職場を希望 ○
	職業名	仕事の内容等	
	場所	賃金	時間
	休日	雇用形態	福利厚生
	転職	転動	その他

2. 2. 2 職業理解

対策1 職業の分類から職業を発見する。

👉 就労経験のない方

👉 就労経験のある方-未経験職業希望

希望する職業や仕事が決まっていない方向け

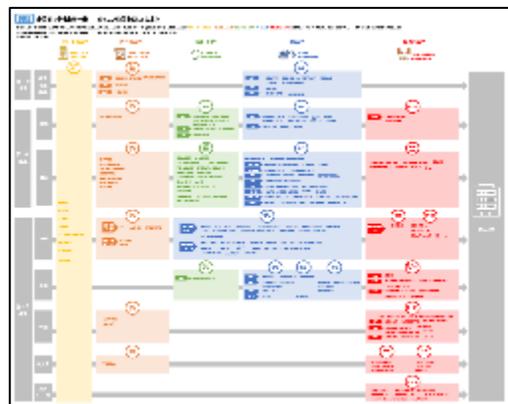
job tagの機能と活用方法

職業検索	未経験でも比較的入りやすい職業	未経験でも比較的入りやすい職業を種類ごとに探すことができます。
職業情報	関連図	「B to B（企業間取引）」では、普段の生活の中で目にしない職業を探することができます。産業とエンドユーザに商品やサービスが届くまでの流れに沿って職業がマップされており、「B to B職種関連図」からPDFをダウンロードすることでB to Bの職業を一覧できます。
職業検索	テーマで検索	「コンピュータ・ITの仕事」、「自然を探る」などのテーマに関連する職業を探することができます。
職業検索	イメージ検索（地図）	地図のイラストから、場所を選択することで、その場所で仕事をする職業を探することができます。
職業検索	賃金・求人倍率で検索	都道府県別に、賃金や有効求人倍率から希望する条件の職業を探することができます。

イメージ検索（地図）



B to B（企業間取引）



ある程度希望する職業や仕事が決まっている方向け

job tagの機能と活用方法

職業情報	関連図	「IT・通信」、「介護」、「事務」、「営業」、「金融」、「医療・看護」、「B to C（消費者取引）」、「土木・建築」では、各業界・職種に関する説明と、関連する職業を俯瞰した形で提示します。各業界・職種ページの「関連図」はPDFをダウンロードすることができます。
職業検索	職種カテゴリーで検索	職種カテゴリーの「大分類」、「中分類」を選択することで、体系的に職業を探することができます。
職業検索	産業で検索	日本標準産業分類の「大分類」、「中分類/小分類」を選択することで、体系的に職業を探することができます。
職業検索	職業分類で検索	厚生労働省編職業分類の「大分類」、「中分類/小分類」を選択することで、体系的に職業を探することができます。

2. 2. 2 職業理解

対策2 興味・スキル・知識等から職業を発見する。

👉 就労経験のない方

👉 就労経験のある方-未経験職業希望

活かしたいスキルや苦手な仕事の内容等がある方向け

job tagの機能と活用方法

職業 検索	スキル・知識などで検索	「強みとなるスキル・知識」、「不足しているスキル・知識」を選択することで、持っているスキル・知識に合った職業を探することができます。
職業 検索	免許・資格で検索	持っている免許・資格を選択することで、その免許・資格に関連する職業を探することができます。
職業 検索	仕事の性質で検索	「対人関係」、「身体・物理的制約」、「その他の特性」に分けられた37つの「仕事の性質」のうち、「重視する仕事の性質」、「できるだけ避けたい仕事の性質」、「避けたい仕事の性質」を選択することで、求職者の求める仕事の性質に合った職業を探することができます。
職業 検索	仕事の内容で検索	「情報やデータの収集・把握」、「人とかかわる、指導・管理」、「分析・判断・想像・計画」、「身体活動・機器操作」に分けられた41の「仕事の内容」のうち、「得意とする仕事の内容」、「苦手とする仕事の内容」を選択し、求職者の得意・不得意に合った職業を探することができます。
職業 検索	タスクで検索	経験のあるタスクや、やってみたいタスクのキーワードを入力することで、タスクから職業を探することができます。
自己 診断	しごとと能力プロフィール	受検者の「しごとと能力プロフィール」の値に近い職業を探することができます。「スキル」、「知識」、「興味」、「仕事価値観」、「仕事の性質」、「アビリティ」の1つ以上の数値を設定し、設定したものを選択することで職業を検索してください。

興味や能力面の特徴から職業を探したい方向け

job tagの機能と活用方法

自己 診断	職業興味検査	受検者の仕事に対する「興味」の特徴が提示され、その「興味」に類似した職業を探することができます。
自己 診断	仕事価値観検査	受検者の仕事に対する「価値観」の特徴が提示され、その「価値観」に類似した職業を探することができます。
自己 診断	職業適性テスト (Gテスト)	受検者の「能力面の特徴」が提示され、その「能力面の特徴」に類似した職業グループから職業を探することができます。
自己 診断	ポータブルスキル 見える化ツール	受検者のポータブルスキルに類似した職務・職位を探することができます。

求職支援での使い方 職業の検索結果を絞りたいとき

「職業興味検査」、「仕事価値観検査」では受検者の「興味」や「価値観」の特徴に類似する職業が提示されます。求職者が、提示された職業が多すぎると感じる場合には、「さらに組み合わせで検索する」で他の検索機能と組み合わせで検索することで、職業を絞って探すことができます。

2. 2. 2 職業理解

対策3 興味のある職業について知る。

- 👉 就労経験のない方
- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望

job tagの機能と活用方法

職業情報

職業について、「どんな仕事?」、「就業するには?」、「労働条件の特徴」、「しごと能力プロフィール」、「類似する職業」、「関連リンク」の情報を知ることができます。興味のある職業を複数調べ、その内容を比較することで職業理解が深まります。

例) どんな仕事?

「どんな仕事?」では、各職業の仕事内容が説明され、青い文字の専門用語はカーソルをポイントすることで解説が表示されます。

「どんな仕事?」では、各職業について90秒程度の説明動画を閲覧できます。

例) 就業するには?

「就業するには?」では、一般的な入職ルートや必要な免許や訓練、関連資格などが説明と図解されています。

「しごとと能力プロフィール」では、「スキル」、「知識」、「興味」、「仕事価値観」、「仕事の性質」、「アビリティ」の各項目を、職業横断的に数値化しており、他の職業との比較が可能です。

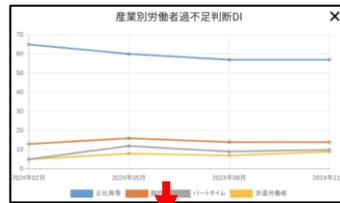
例) しごとと能力プロフィール

項目名にカーソルをポイントすることで解説が表示されます。

例) 統計データ

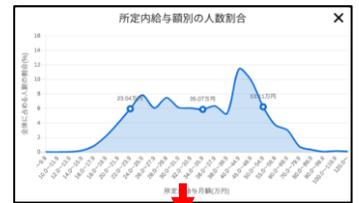
「労働条件の特徴」の統計データでは、その職業の就業者数、労働時間、賃金、年齢、有効求人倍率等を都道府県別に確認できます。

例) 労働者過不足判断



「労働条件の特徴」の産業状況データでは、その職業が属する産業大分類の労働者過不足判断、法人企業景気予測をグラフで確認できます。

例) 所定内給与別の人数割合



「賃金分布(グラフ)」では、その職業の所定内給与別の人数分布、年齢別の年収分布をグラフで確認できます。

各項目の内容や数値については「各数値の詳細解説ページはこちら」から詳細を確認できます。

2. 2. 2 職業理解

対策4 業界・職業間の関連性について知る。

- 👉 就労経験のない方
- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望
- 👉 就労経験のある方-経験職業希望

job tagの機能と活用方法

<p>職業情報</p> <p>関連図</p>	<p>「B to B（企業間取引）」、「IT・通信」、「介護」、「事務」、「営業」、「金融」、「医療・看護」、「B to C（消費者取引）」、「土木・建築」では、各業界・職種に関する説明と、関連する職業を俯瞰した形で提示します。各業界・職種ページの「関連図」はPDFをダウンロードすることができます。興味のある業界・職種のページを読むことで、業界・職種への知識を深めることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>職種カテゴリーで検索</p>	<p>職種カテゴリーの「大分類」、「中分類」を選択することで、体系的に職業を提示できます。興味のある職業がどの職種カテゴリーに属しているのか、同じ職種カテゴリーには他にどのような職業があるのかを知ることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>産業で検索</p>	<p>日本標準産業分類の「大分類」「中分類/小分類」を選択することで、体系的に職業を提示できます。興味のある職業がどの産業に属しているのか、同じ産業には他にどのような職業があるのかを知ることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>職業分類で検索</p>	<p>厚生労働省編職業分類の「大分類」「中分類/小分類」を選択することで、体系的に職業を提示できます。興味のある職業がどの職種分類に属しているのか、同じ職種分類には他にどのような職業があるのかを知ることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>イメージ検索（地図）</p>	<p>地図のイラストから、場所を選択することで、その場所で仕事をする職業を提示できます。働いてみたい「場所」にはどのような職業があるのかを知ることができます。</p>

事務関連職業の関連図

The screenshot displays two sections: '事務関連職業の種類（働く場所別）' and '事務関連職業の種類（業務内容別）'. The first section shows a tree structure of job categories. The second section shows a list of job titles with a red arrow pointing to one of them, indicating that clicking the job name leads to a detailed page.

「関連図」の図をクリックするとPDFファイルが表示され、その中の職業名をクリックすると職業情報ページにリンクします。

2. 2. 3 能力開発

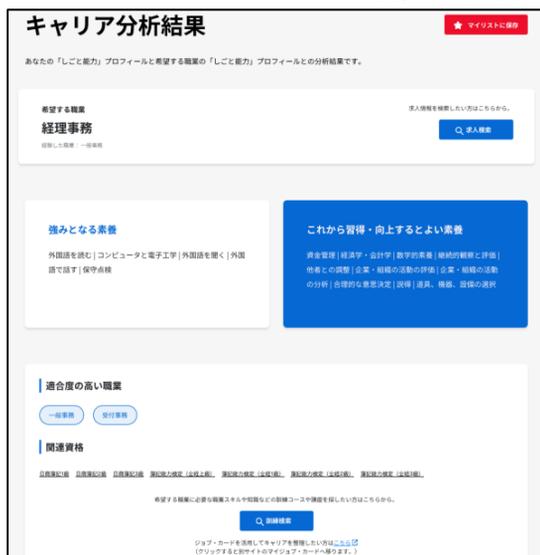
対策1 能力の過不足を確認する。

- 👉 就労経験のない方
- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望
- 👉 就労経験のある方-経験職業希望

job tagの機能と活用方法

能力開発	キャリア分析	<p>これまでの経験から「スキル」、「知識」、「興味」、「仕事価値観」、「仕事の性質」、「アビリティ」についての「しごと能力プロフィール」を作成し、希望する職業との適合度（「強みとなるスキル・知識」、「これから習得・向上するとよいスキル・知識」、「適合度の高い職業」、「関連資格」、「どのようなスキル等がどの程度必要か」など）を提示します。</p> <p>「しごと能力プロフィール」作成時には、今までの経験を思い出しながら数値を設定してください。</p> <p>「キャリア分析結果」画面の「分析結果詳細」のグラフでは、希望職種の数値より求職者の数値の方が高いものは希望職種で活かせるスキル・知識等であり、希望職種の数値より求職者の数値の方が低いものは希望職種に就くために不足している可能性のあるスキル・知識等であることがわかります。</p> <p>不足しているスキル・知識等がある場合には、「関連資格」取得の検討や、「訓練検索」で訓練の検討を行うことができます。</p>
適職探索	ポータブルスキル見える化ツール	<p>受検者のポータブルスキルと、その値に類似する5つの職務・職位のポータブルスキルがレーダーチャートで比較できます。「あなたの結果」の数値が低い項目については、能力開発の余地がある可能性があります。なぜそういった結果になったと思うかなど求職者と一緒に分析を行うことで、能力開発に繋げることができます。</p>
能力開発	職業能力チェック	<p>ホワイトカラー職種について、経験した職種・レベルの職業能力評価基準の各項目に対し、「一人でできている」、「ほぼ一人でできている」、「できていない」をチェックすることで、できていない項目を明確化し能力開発に繋げることができます。</p>
職業情報	職業情報	<p>希望する職業の「どんな仕事?」、「タスク」、「関連資格」、「しごと能力プロフィール」等を確認し、希望する職業に必要な能力等を把握することができます。</p>

例) キャリア分析の結果画面



2. 2. 3 能力開発

対策2 訓練を検索する。

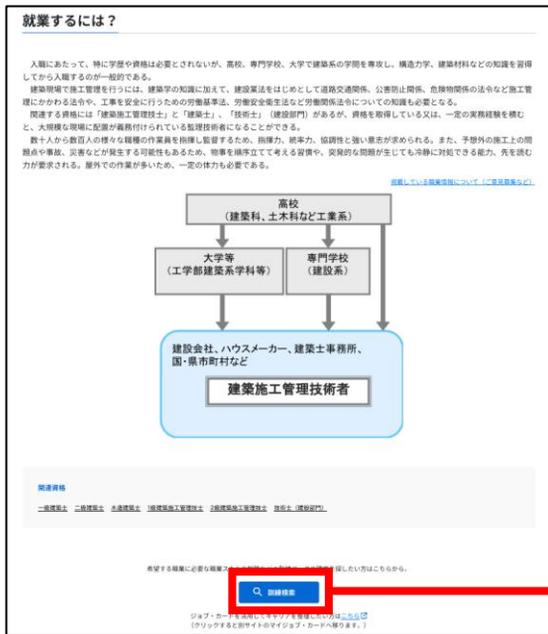
- 👉 就労経験のない方
- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望
- 👉 就労経験のある方-経験職業希望

job tagの機能と活用方法

職業情報

訓練検索

職業情報ページから、「公的職業訓練」、「教育訓練給付対象講座」、「マナパス」、「マナビDX」の職業訓練・講座を検索できます。



- ・ 公的職業訓練
 - ・ 教育訓練給付対象講座
 - ・ マナパス
 - ・ マナビDX
- から選択できます。



「想定する職種」として閲覧していた職業が属する主な職業分類が最初に選択されています。(変更も可能です)

「公的職業訓練」を選択すると職業訓練検索画面に移ります。(「教育訓練給付対象講座」、「マナパス」も同様) ※「マナビDX」は直接サイトに遷移します。

ハローワークインターネットサービスの訓練検索ページにリンクします。

2. 2. 4 応募・面接

対策1 求人を検索する。

- 👉 就労経験のない方
- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望
- 👉 就労経験のある方-経験職業希望

job tagの機能と活用方法

職業
情報

求人検索

職業情報ページ等から、ハローワークインターネットサービスの求人情報が検索できます。

求人検索の画面

「希望する職種」として
閲覧していた職業が属する
主な職業分類が
最初を選択されています。
(変更も可能です)

ハローワークインターネットサービスの
求人検索ページにリンクします。



さらに詳細な条件
を指定したい場合
は、上にスクロール
することで条件
を追加・変更でき
ます。



2. 2. 4 応募・面接

対策2 自分の能力等を言語化し、アピールポイントを整理する。

- 👉 就労経験のない方
- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望
- 👉 就労経験のある方-経験職業希望

job tagの機能と活用方法

自己診断	職業興味検査	受検者の仕事に対する「興味」の特徴を応募書類に記載でき、面接でアピールできます。
自己診断	仕事価値観検査	受検者の仕事に対する「価値観」の特徴を応募書類に記載でき、面接でアピールできます。
自己診断	職業適性テスト (Gテスト)	受検者の能力面の特徴を応募書類に記載でき、面接でアピールできます。
能力開発	キャリア分析	「キャリア分析結果画面」に表示される「強みとなるスキル・知識」を応募書類に記載でき、面接でアピールできます。
自己診断	ポータブルスキル見える化ツール	ポータブルスキルの特徴を応募書類に記載でき、面接でアピールできます。
能力開発	職業能力チェック	ホワイトカラー職種について、自分ができることを応募書類に記載でき、面接でアピールできます。
職業情報	職業情報	希望する職業の「どんな仕事?」、「しごと能力プロフィール」の情報のうち希望する職業との共通点を応募書類に記載でき、面接でアピールできます。
求職活動	求職ガイド	「ワークシート」に記入していくことで、経験してきたこと、アピールポイント等の言語化ができます。

支援のポイント アピールポイントの裏付け

応募書類に記載したアピールポイントや特徴を、求人企業に理解してもらうためには、各機能の診断結果を記載するだけでなく、求職者の経験との紐づけを行い、アピールポイントや特徴の裏付けを行うことが重要です。

- 「職業興味検査」、「仕事価値観検査」、「ポータブルスキル見える化ツール」の診断結果と経験・エピソード・実績などの紐づけを行う。
- 応募する職業の職業情報ページに記載の仕事内容、タスク、スキル等と経験してきたことの共通点を見つけ、実体験を記載する。

2. 2. 4 応募・面接

対策3 面接時・内定時に必要な情報を確認する。

- 👉 就労経験のない方
- 👉 就労経験のある方-未経験職業希望
- 👉 就労経験のある方-経験職業希望

job tagの機能と活用方法

求職活動

求職ガイド

「求職ガイド」で応募書類作成や面接のポイントやアドバイスを確認できます。

求職活動

労働法の基礎知識 全国最低賃金一覧

「知って役立つ労働法 働くときに必要な基礎知識」、「地域別最低賃金の全国一覧」を提示でき、求人情報・内定時の雇用契約情報を確認できます。

求職ガイド

応募書類の作成

面接

1 求職活動の進め方	2 求職活動の内容						3 その他	4 9-1ポイント
	2.1 履歴・自己分析	2.2 自己分析	2.3 労働市場分析	2.4 職業・条件の決定	2.5 求人決定	2.6 応募書類		
2.6.2 応募書類の作成								
<p>せっかくの経験やスキルが、職務経歴書や履歴書などの応募書類の出発点で台無しになるというケースも少なくありません。「自己PRと志望動機の結果を参考に、「どうやって書くのか?」「企業によってどう書き分けるのか?」などをしっかり押さえて、あなたの魅力をしっかりと採用担当者に伝える書類を作成します。</p> <p>✓ アピールポイントの考え方の例</p> <p>【2.2.1 興味・価値観・能力面の特徴等の把握】で行った「職業興味検査」、「仕事価値観検査」、「職業適性テスト（Gテスト）」の結果と、「2.2.2 これまでの振り返り」で記入した「ワークシート3」、「ワークシート4」の経歴を結びつけてみましょう。それがあなたのアピールポイントとなります。</p>								
<p>📄 「履歴書・職務経歴書の書き方」の紹介（出典 厚生労働省ハローワークインターネットサービス）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「応募書類の作り方（冊子）の紹介 「応募書類の作り方 パンフレット」では履歴書を中心に応募書類作成に当たっての注意点やポイントについてご紹介しています。職務経歴書作成のポイントや応募書類提出の注意点も記載されています。 • 「職務経歴書の作り方（冊子）の紹介 「職務経歴書の作り方 パンフレット」では、職務経歴書の作成手順や記載例、参考となるキーワードなどを紹介しています。職務経歴書は、履歴書では書ききれない具体的なキャリアやあなたのやる気をアピールするためのものです。このパンフレットを参考に、アピール力ある職務経歴書を作りましょう。 • 「職務経歴書の作り方」別冊「ワークブック マスターシート」（冊子）の紹介 「職務経歴書の作り方」別冊「ワークブック マスターシート」（冊子）（以下、「マスターシート」）は、自分の職務経歴や能力・強みなどを、職務経歴書を通して応募先企業にアピールできることを念頭にまとめたものです。事前にマスターシートに自分のことを記入しておくことで、履歴書や職務経歴書を作成する時、面接で話す内容を考える時に、応募先企業に応じてアピールする内容を厳選選択して効果的に考えることができます。 <p>📄 アクセスしてみよう!</p> <p>ハローワークインターネットサービス「履歴書・職務経歴書の書き方」 https://www.hellowork.mhlw.go.jp/member/career_doc01.html</p> 								
<p>📄 応募書類作成時の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 応募する職業や企業によって必要なスキル・知識や特徴が異なります。自己PRや「志望動機」は使いまわさないようにしましょう。 • 応募書類はあなたのことを知らない企業の選考担当者を読むものです。誰が読んでも理解できる分かりやすい文章を書きましょう。 • 企業は応募書類を見て最初の審査を行います。誤字・脱字や記入漏れがないように気を付けましょう。 • 書類を提出する前にもう一度、分かりやすい文章になっているか? 書いたことは伝わるか? 誤字脱字はないか? 必要事項はすべて記入しているか? 必ず読み返して確認しましょう。 • 面接は、応募書類を見ながら行います。応募書類は提出する前に必ずコピーを取って面接前に読み直し、何を書いたのか頭に入れておきましょう。 								

23

1 求職活動の進め方	2 求職活動の内容						3 その他	4 9-1ポイント
	2.1 履歴・自己分析	2.2 自己分析	2.3 労働市場分析	2.4 職業・条件の決定	2.5 求人決定	2.6 応募書類		
2.6.3 面接								
<p>無事に書類選考を通過したら、いよいよ面接です。ただでさえ緊張しつらな場です。万全の準備をして臨みたいものです。いくら書類の内容が良くても、面接の場でそれが伝わらなければ意味がありません。ツボを押さえたコミュニケーションをとるために、これまでの分析を踏まえ、面接官が聞きたいことや見たいポイントを押さえるように努めましょう。</p>								
<p>📄 面接を受ける際の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> • 面接の流れを知っておく • 面接のマナーをおさらいしておく • よある質問の答えを想定する 								
<p>1 第一印象</p> <p>面接では、まず、第一印象がよくなるよう、服装・髪型等は清潔感のあるTPOにあつたものとなるようにします。これは、相手の会社に入社し、また、入社した時はTPOを自分で判断し適切に対応できるという印象を与えます。業界によって服装等のTPOが異なりますから、入社し業界に合わせてください。</p>								
<p>2 面接に行くまで</p> <p>面接は面接前から始まっていると思って気を抜かずに対応しましょう。</p> <p>遅刻は厳禁ですが、公共交通機関の遅延などもあり得ます。まずは、早く面接場所の近くに行って時間を調整するのが一番ですが、それもできなかった場合は、必ず面接時間より前に相手に連絡を入れます。事情を説明すれば、開始を遅らせて、別の日程に調整してもらえらる場合もあります。</p> <p>また、面接会場到着後の受付等での受け答え、待っている間の態度等も見られている場合もあります。雑談に就くまでが面接です。</p>								
<p>3 面接時の対応</p> <p>基本的なマナーを押さえます。</p> <p>1人ずつ部屋に呼ばれる場合は、ドアを3回「カク」失礼しますと叩いて入ります。ドアをしめるときは丁寧に閉めますが、面接官に対して完全に後ろ向きにならないように注意します。ここからは面接官とのやりとりになります。着席前に、名乗ってお辞儀をするのが一般的です。お辞儀は45度くらいまで丁寧にうかがうのがよいでしょう。面接官が促してから椅子に座ります。</p> <p>椅子に座っているときも、あまり奥まで腰掛せず、姿勢を良くし、話している相手の方をしっかりと見て、話すときは声が小さくならないように気をつけると、印象がよくなるように心がけます。</p> <p>面接は、提出した履歴書や職務経歴書などを見ながら行われるのが一般的です。自分が書いた内容がしっかりと覚えて対応しましょう。</p>								
<p>4 模擬面接</p> <p>面接が苦手な方は練習をしておくのもよいでしょう。キャリアコンサルタントによる面接指導などは、いろいろなところで提供されています。ビデオに撮って指導してくれるところもありますので、相談してみましょう。</p>								

24

2. 3 能力開発

能力開発における課題と対策の一覧です。

課題 1 自己理解

対策1 興味や価値観を明確化し、目指す方向を確認する。

対策2 経験を棚卸し、能力を整理する。

対策3 ポータブルスキルを明確化する。

課題 2 職業理解

対策1 業界・職業間の関連性について知る。

課題 3 能力開発

対策1 能力の過不足を確認する。

対策2 訓練を検索する。

2. 2. 1 自己理解

対策1 興味や価値観を明確化し、目指す方向を確認する。

job tagの機能と活用方法

自己診断 職業興味検査

受検者の仕事に対する「興味」の特徴が提示されます。相談者自身の自己認識と合っているかなどを話すことで、自己理解が深まります。また、受検者の「興味」の特徴に類似する職業が提示されます。その中で、どのような職業のこういった内容に興味を持つかを問いかけることで、相談者の興味の方向性を確認できます。

自己診断 仕事価値観検査

受検者の仕事に対する「価値観」の特徴が提示されます。相談者自身の自己認識と合っているかなどを話すことで、自己理解が深まります。また、受検者の「価値観」の特徴に類似する職業が提示されます。その中で、どのような職業のこういった内容に価値観を感じるかを問いかけることで、相談者の価値観の方向性を確認できます。

職業情報 職業情報

興味のある職業の職業情報ページを複数閲覧し、こういった職業のこういったところに興味を持つのかを考えることで、興味の方向性を整理できます。

例) 仕事価値観検査の診断結果画面



検査結果と類似する職業の一覧が表示されます

支援のポイント 職業興味検査・仕事価値観検査の結果分析

職業興味検査・仕事価値観検査では、「なぜこのような結果となったのか？」を分析していくことで、自己理解を深めることができます。結果が「合っている」、「合っていない」で終わってしまうのではなく、支援の中で下記の対応をすることで自己理解に繋げてください。

- 「診断結果」のページを見ながら、過去の経験から思い当たることはないかという質問をし、**経験・エピソード・実績などとの紐づけ**を行う。
- 出てきた職業との**共通点**を探っていく。

能力開発での使い方 経験・エピソード・実績などとの紐づけ

「職業興味検査」、「仕事価値観検査」の結果と、経験・エピソード・実績などとの紐づけを行う際は、今までの職務経験等の中で、成功したこと、失敗したこと、やりがいを感じた職務、苦手だった職務、やり遂げたことなどを語ってもらい、検査結果と紐づくかどうかを相談者と一緒に分析することで、より深い自己理解に繋がります。

2. 2. 1 自己理解

対策2 経験を棚卸し、能力を整理する。

job tagの機能と活用方法

<p>職業情報</p> <p>職業情報</p>	<p>経験した職業のページの「どんな仕事?」、「動画」、「タスク」、「仕事の内容」などを見ながら経験してきたことを話してもらうことで、経験の棚卸ができます。忘れていたことなども思い出すことができ、整理していく作業は相談者の自信に繋がります。また、それらの経験を「しごと能力プロフィール」の「スキル」や「知識」などに紐づけることで、経験を能力として整理できます。</p>
<p>求職活動</p> <p>求職ガイド</p>	<p>「ワークシート3 職務経歴」、「ワークシート4 職務以外の経験」、「ワークシート5 保有するスキル・能力①」、「ワークシート6 保有するスキル・能力②」に経験を記入していくことで、経験の棚卸やスキル・能力の整理ができます。</p>
<p>自己診断</p> <p>しごと能力プロフィール</p>	<p>受検者の「しごと能力プロフィール」を作成することで、自身のスキル・知識などの能力を整理できます。経験してきたことを振り返りながら、各項目の数値をどのように設定するかを考えることで、裏付けのあるしごと能力プロフィールが作成できます。すべての項目を整理するのが難しい場合には、「スキル」のみ、「仕事の性質」のみなど対象を絞って活用してください。</p>
<p>能力開発</p> <p>職業能力チェック</p>	<p>ホワイトカラー職種について、できること、これからできるようにしていく必要があることを確認できます。経験した職種・レベルの職業能力評価基準の各項目に対し、「一人でできている」、「ほぼ一人でできている」、「できていない」をチェックすることで、経験の棚卸に役立ちます。</p>

能力開発での使い方 求職ガイドの「ワークシート」

求職ガイドは、job tagを活用した求職活動の流れを記載したのですが、添付されている「ワークシート」の中には、能力開発で役立つものもあります。「ワークシート3 職務経歴」、「ワークシート4 職務以外の経験」、「ワークシート5 保有するスキル・能力①」、「ワークシート6 保有するスキル・能力②」、「ワークシート11 不足している能力の整理」など能力開発に役立つものを活用してください。

ワークシート1	求職活動の背景・目的	ワークシート8	業界研究
ワークシート2	求職活動に関わるイベント	ワークシート9	興味・関心のある職業の労働条件
ワークシート3	職務経歴	ワークシート10	希望する職業と労働条件
ワークシート4	職務以外の経験	ワークシート11	不足している能力の整理
ワークシート5	保有するスキル・能力①	ワークシート12	訓練情報
ワークシート6	保有するスキル・能力②	ワークシート13	企業研究
ワークシート7	アピールポイント	ワークシート14	自己PRと志望動機

2. 2. 1 自己理解

対策3 ポータブルスキル・能力面の特徴を明確化する。

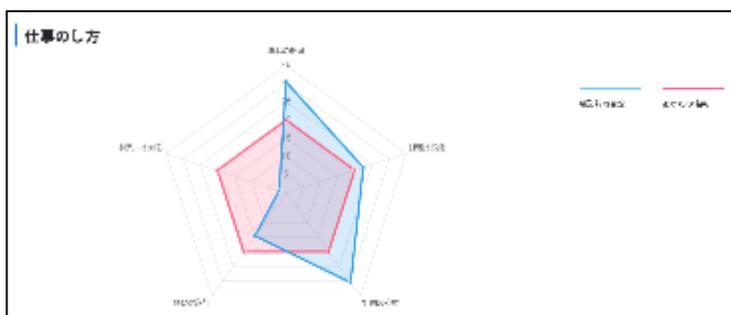
job tagの機能と活用方法

自己
診断

ポータブルスキル 見える化ツール

受検者のポータブルスキルと、その値に類似する5つの職務・職位のポータブルスキルがレーダーチャートで比較できます。「あなたの結果」のレーダーチャートの各項目を確認することで、相談者のポータブルスキルについての強み・弱みを明確化でき、なぜその数値になったのかを今までの経験と紐づけることで、自己理解に繋がります。

例) ポータブルスキル見える化ツールの診断結果に表示されるレーダーチャート



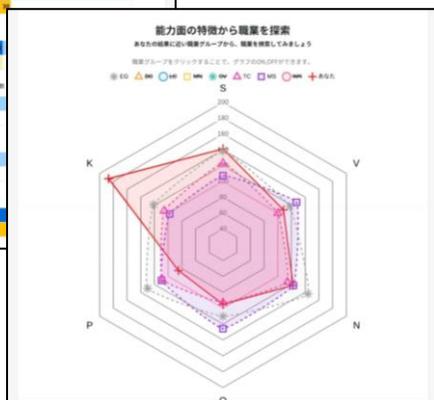
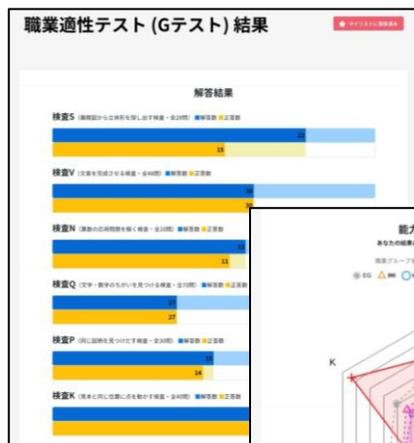
job tagの機能と活用方法

自己
診断

職業適性テスト (Gテスト)

6つの検査を受けると、「解答結果」、「能力面の特徴から職業を探索」、「あなたの結果に近い職業グループと含まれる職業例」が表示され、相談者の能力面の特徴に近い職業を検索することができます。

例) 職業適性テスト (Gテスト) の結果画面



検査結果と類似する職業の一覧が表示されます

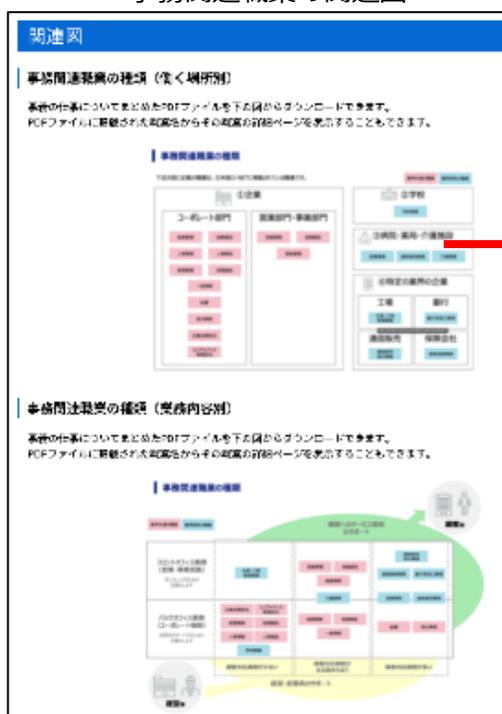
2. 2. 2 職業理解

対策1 業界・職業間の関連性について知る。

job tagの機能と活用方法

<p>職業情報</p> <p>関連図</p>	<p>「B to B（企業間取引）」、「IT・通信」、「介護」、「事務」、「営業」、「金融」、「医療・看護」、「B to C（消費者取引）」、「土木・建築」では、各業界・職種に関する説明と、関連する職業を俯瞰した形で提示します。各業界・職種ページの「関連図」はPDFをダウンロードすることができます。興味のある業界・職種のページを読むことで、業界・職種への知識を深めることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>職種カテゴリで別検索</p>	<p>職種カテゴリの「大分類」、「中分類」を選択することで、体系的に職業を提示できます。興味のある職業がどの職種カテゴリに属しているのか、同じ職種カテゴリには他にどのような職業があるのかを知ることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>産業で検索</p>	<p>日本標準産業分類の「大分類」「中分類/小分類」を選択することで、体系的に職業を提示できます。興味のある職業がどの産業に属しているのか、同じ産業には他にどのような職業があるのかを知ることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>職業分類で検索</p>	<p>厚生労働省編職業分類の「大分類」「中分類/小分類」を選択することで、体系的に職業を提示できます。興味のある職業がどの職種分類に属しているのか、同じ職種分類には他にどのような職業があるのかを知ることができます。</p>
<p>職業検索</p> <p>イメージ検索（地図）</p>	<p>地図のイラストから、場所を選択することで、その場所で仕事をする職業を提示できます。働いてみたい「場所」にはどのような職業があるのかを知ることができます。</p>

事務関連職業の関連図



「関連図」の図をクリックするとPDFファイルが表示され、その中の職業名をクリックすると職業情報ページにリンクします。

2. 2. 3 能力開発

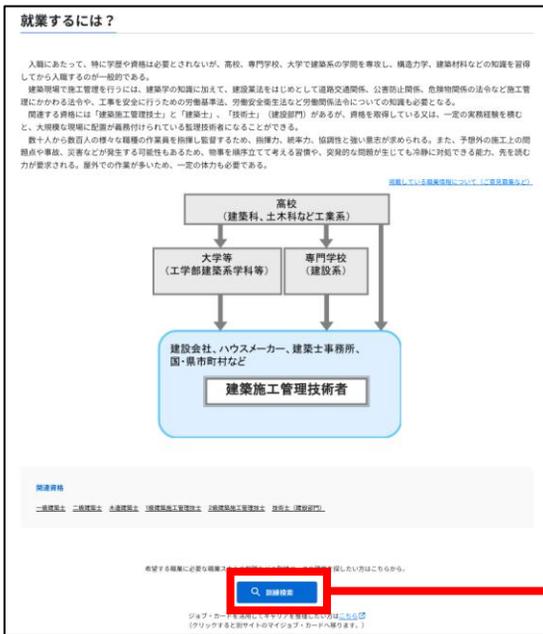
対策2 訓練を検索する。

job tagの機能と活用方法

職業情報

訓練検索

職業情報ページから、「公的職業訓練」、「教育訓練給付対象講座」、「マナパス」、「マナビDX」の職業訓練が検索できます。



- ・ 公的職業訓練
 - ・ 教育訓練給付対象講座
 - ・ マナパス
 - ・ マナビDX
- から選択できます。



「公的職業訓練」を選択すると職業訓練検索画面に移ります。（「教育訓練給付対象講座」、「マナパス」も同様）

※ 「マナビDX」は直接サイトに遷移します。

「想定する職種」として閲覧していた職業が属する主な職業分類が最初に選択されています。（変更も可能です）

ハローワークインターネットサービスの訓練検索ページにリンクします。

3. 事例

3. 1 事例一覧

job tagを使った支援の事例一覧です。

No.	目的	事例概要	対象者	就業経験
①	職業理解	自分の知らない職業が多くあるのだと理解してもらい、職業選択への興味を深めることができた事例	20代女性	なし
②	職業理解	「動画」や「タスク」で職業についてのイメージを具体化できた事例		
③	職業理解	業界についての知識を深めることで、将来の不安を取り除くことができた事例	20代男性	なし
④	自己理解	興味にあった仕事を確認することで、やりたいことを言語化して自信を持つことができた事例		
⑤	自己理解	優先して考慮すべきことを整理することで、すべき求職活動が明確になった事例	30代女性	あり 未経験 職業希望
⑥	職業理解	未経験でも比較的入りやすい職業を提示することで、入職を急いでいる求職者がスピードを持って入職できた事例		
⑦	職業理解	未経験だが興味のある職業の情報を提示したことで、職業への希望度合を向上させた事例	30代男性	あり 未経験 職業希望
⑧	自己理解	自分の興味・価値観と希望している職業の興味・価値観を比較することで、共通点を見つけ応募への自信がついた事例		
⑨	自己理解	経験した職業の業務内容や必要なスキル等を振り返ることで、習得してきた能力を自覚し、職業選択の幅が広がった事例	40代男性	あり 未経験 職業希望
⑩	自己理解	「好きなこと・やりたいこと」を軸に職業選択ができた事例		
⑪	自己理解	経験の棚卸を行うことで、「経験したこと」、「強み」を整理・自覚し、自信を持つことができた事例	50代女性	あり 未経験 職業希望
⑫	能力開発	経験した業務は一般的にどういったレベルの人が行う業務だったのかを確認したことで、自信を持つことができた事例		
⑬	職業理解	身体的条件を軸に職業を探ることができたことで、前向きに求職活動に取り組めた事例	60代男性	あり 未経験 職業希望
⑭	応募・面接	応募・面接・雇用契約についての知識をつけることができた事例		
⑮	自己理解	仕事の内容をイメージしながら職業興味検査を行うことで、ポジティブになり自己肯定感が上がった事例	30代女性	あり 未経験 職業希望
⑯	自己理解	仕事の性質の項目を一つひとつよく考えることで、不得意だと思い込んでいたことが、本当はそうではないと気が付いた事例		
⑰	自己理解	職業興味検査結果を基に面談を行うことで、性格や前職の退職理由などを冷静に確認でき、内的理解・ラポール形成に効果があった事例	40代男性	あり 未経験 職業希望
⑱	職業理解	興味のある職業を見ていくことで、様々な職業の入職への難易度を理解し、現実的な転職ができた事例		
⑲	自己理解	興味関心を再確認することで、好きなことを仕事にしたいという意欲を向上させた事例 職業を閲覧する際に支援対象者の反応を見ることで、興味を持っている職業および好き嫌いまで、把握することができた事例	20代男性	あり 未経験 職業希望

3. 2 事例①②：職業理解支援

job tagを使った支援の事例を紹介しています。



20代女性

アルバイトを続けてきたが、コロナ禍で仕事が激減し、これを機に正社員を希望。世の中にどのような職業があるのか分からなかった。

1 自分の知らない職業が多くあるのだと理解してもらい、職業選択への興味を深めることができた事例

課題

店員など普段の生活の中で目にする仕事や友人が就いている仕事以外、世の中にどのような仕事があるのか分からなかった。

対策

職業情報

関連図

「B to B（企業間取引）の仕事」の図を一緒に閲覧した。

工夫

知らない職業が多くあることを知ってもらうため、生活の中で目にするものないB to Bの職業が掲載された関連図を閲覧した。

効果

はじめは、図の中から、聞いたことある仕事を探して職業ページを閲覧していたが、しだいに、聞いたことがないが興味を持ってそうな仕事の職業ページも閲覧するようになっていった。「新しい発見がありおもしろい」とのことで、自分の知らない職業が多くあることを知ってもらえた。

2 「動画」や「タスク」で職業についてのイメージを具体化できた事例

課題

興味があるという仕事について、その理由・興味を聞いたところ、友人から聞いた話をそのまま仕事内容だと思い込んでおり、実際の業務内容と異なるもので、実態をイメージができていない様子だった。

対策

職業情報

職業情報

興味のある職業の職業情報ページを一緒に閲覧した。

工夫

具体的な業務内容のイメージを持ってもらうため、実際に働いている場面を紹介している動画を視聴してもらい、「タスク」を説明した。

効果

「動画」や「タスク」の説明により、「疑似体験に近いぐらいのイメージが沸いた」とのことだった。興味を持っていた職業について、動画閲覧により、「実際に行うことを知ることができた」とのことだった。学生や正社員経験がない方には動画閲覧は効果的だと思った。

(注) 本資料に記載の「事例」は、類似事例を基に再構成しています。

3. 2 事例③④：職業理解・自己理解支援

job tagを使った支援の事例を紹介しています。



20代男性

大学院でITの勉強をしているが、将来が不安。自分の専攻が本当に向いているのか分からなかった。

3 業界についての知識を深めることで、将来の不安を取り除くことができた事例

課題

ITの勉強をしていて、やりたい職業のイメージもぼんやり持っているが、その職業に就くことができるのか不安に思っていた。

対策



関連図

「IT・通信の仕事」の資料を一緒に閲覧した。

工夫

不安を取り除くことができるのではと考え、**就きたい業界についての知識を深めてもらうようIT関連図を案内した。**

効果

ITに関する職業のことは分かっているつもりだったが、**知らなかったIT関連職業の種類や分類、会社の中での役割など、まだ知らないことは多くあるのだということが分かった**とのこと。ITの職業の中にも、初職者が就ける職業、経験を積んだ上で就ける職業などがあり、「**経験を積むことでキャリアアップできる**」ということが分かり、少し安心した様子だった。

4 興味にあった仕事を確認することで、やりたいことを言語化して自信を持つことができた事例

課題

大学院での専攻を活かした職業に就こうと思っているが、「専攻を決める時に深く考えず決めてしまった」とのこと、**本当にこの方向で就職して良いのか自信がなかった。**

対策



職業興味検査

仕事価値観検査

職業興味検査、仕事価値観検査を実施してもらい、一緒に結果を分析した。

工夫

自分の興味にあった仕事なのかヒントを得るため、職業興味検査を実施した。

効果

就こうと思っている職業は出てこなかったが、近い職業や興味のある職業は出てきた様子だった。診断結果ページの「あなたの特徴」やスコア、出てきた職業のうち興味のある職業について話を引き出すうちに、**だんだんと自分のしたい職業のイメージが構築され、「ITに関する研究が好きで、やりたい」と言語化して自信をもつことができた。**

(注) 本資料に記載の「事例」は、類似事例を基に再構成しています。

3. 2 事例⑤⑥：自己理解・職業理解支援

job tagを使った支援の事例を紹介しています。



30代女性

経験してきた職業では、家庭（介護・子育て）との両立が難しいため、新しい職業へのキャリアチェンジを検討していた。

5 優先して考慮すべきことを整理することで、すべき求職活動が明確になった事例

課題	新しい職業への就職を検討したいが、まずは 何から考えたら良いか分からない状態 だった。
対策	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #8e44ad; color: white; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">求職活動</div> <div style="color: #8e44ad; font-weight: bold; margin-right: 10px;">求職ガイド</div> <ul style="list-style-type: none"> • ワークシート1 求職活動の背景・目的 • ワークシート3 職務経歴 • ワークシート9 興味・関心のある職業の労働条件 • ワークシート10 希望する職業と労働条件を記入してもらい、一緒に確認した。 </div>
工夫	自分が優先して考慮すべきことを整理するため、 希望する労働条件や興味・関心、経歴を整理するためのワークシートに記入してもらった。
効果	自分が一番優先したいことは何なのか、今までの経験の中で活かしたいことは何なのかなど、整理できていなかったが、「 どんなことを優先してキャリアチェンジを考えるべきか、まずは何をすれば良いか分かった 」ということだった。

6 未経験でも比較的入りやすい職業を提示することで、入職を急いでいる求職者がスピードを持って入職できた事例

課題	新しい職業へのキャリアチェンジが必要だが、 経済的にすぐにでも就業しなければならなかった。
対策	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="background-color: #f1c40f; color: white; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">職業検索</div> <div style="color: #f1c40f; font-weight: bold; margin-right: 10px;">未経験でも比較的入りやすい職業</div> <div>「未経験でも比較的入りやすい職業」の一覧を紹介した。</div> </div>
工夫	職業訓練等の時間がないため、 経験がなくても入職できる可能性のある職業から興味のある職業を選んでもらえるようにした。
効果	職業の種類ごとに分類された一覧で分かりやすかったため、興味のある複数の職業の情報を確認できた。求人を探し、応募、 未経験職種でありながら、スピードを持って入職できた。

(注) 本資料に記載の「事例」は、類似事例を基に再構成しています。

3. 2 事例⑦⑧：職業理解支援

job tagを使った支援の事例を紹介しています。



30代男性

会社の事業見直しに伴い転職を希望。ずっと興味があった職人系の職業を検討していたが、まったくの未経験のため応募を迷っていた。

7 未経験だが興味のある職業の情報を提示したことで、職業への希望度を向上させた事例

課題

経験してきた職業ではなく、職人系の職業に興味を持っていたが、**自分の年齢から新しく始められるものなのか分からず迷っていた。**

対策

職業情報

職業情報

興味のある職業情報を一緒に閲覧した。

工夫

その職業に就いている人の入職経路を確認するため、「**就業するには？**」の情報を一緒に確認した。

効果

資格が特に必要ではないこと、専門とする企業・店舗での中途採用があることなどが分かり、**自分でも挑戦できると自信になった。**また、入職してから一人前になるまでの期間や関連資格の情報を見て、やる気になった様子だった。

8 自分の興味・価値観と希望している職業の興味・価値観を比較することで、共通点を見つけ応募への自信がついた事例

課題

経験してきた職業とは全く違う職業を希望するため、**自分に合っているのか分からず不安だった。**

対策

自己診断

職業興味検査

仕事価値観検査

職業興味検査・仕事価値観検査を実施した。

工夫

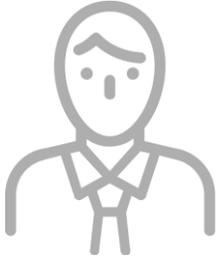
診断結果と提示された職業を一緒に見て、それぞれの所感を聞いていくことで、**自分の興味・価値観と希望している職業の興味・価値観の共通点を洗い出した。**

効果

「没頭できる作業を行うこと」が、**仕事に求める興味や価値観として、優先度が高いことが分かり、希望する職業とも一致していたため、「問題なく就業できそう」と応募への自信に繋がった。**

3. 2 事例⑨⑩：自己理解・職業理解支援

job tagを使った支援の事例を紹介しています。



40代男性

いくつかの職業を経験してきたが、自分に自信がなく、人との関わりが希薄な職業を希望していた。

9 経験した職業の業務内容や必要なスキル等を振り返ることで、習得してきた能力を自覚し、職業選択の幅が広がった事例

課題

人とのコミュニケーションが苦手だと感じており、「人との関わりがあまりない職業」という条件の優先度が高く、**職業選択の幅がせまかった。**

対策



職業情報

経験してきた職業の職業ページを一緒に閲覧した。

工夫

様々な職業を経験しているということだったので、「人との関わり」以外にも職業選択の観点があるのではと考え、**職業情報ページを使って今までの経験を振り返ることにした。**

効果

経験したいくつかの職業のページの仕事内容、タスク、スキル等を見ながら、経験してきた業務内容や良かったこと嫌だったことなどを聞いていくと、コミュニケーションにプレッシャーは感じるものの、**不得意ではないことを本人が自覚できた。**また、人の成長を支援したいという気持ちがあるということも自覚でき、これまでに意識しなかった観点からも職業を探すことにした。

10 「好きなこと・やりたいこと」を軸に職業選択ができた事例

課題

「人の成長を支援したい」という気持ちはあるものの、**どのような職業があるのか分からなかった。**

対策



テーマで検索

「教える、指導する、育成する」を選択し職業を検索した。

工夫

「検索結果一覧」の上位に表示された職業はピンとこなかったようだが、「並び替え」で「人気順」を選択し、**上位に表示された職業は納得感のあるものだった様子。**

効果

「人の成長を支援する」といった、**自分がやりたい分野でも様々な職業があることが分かり、その中で興味のある職業を見つけることができた。**

(注) 本資料に記載の「事例」は、類似事例を基に再構成しています。

3. 2 事例①②：自己理解・能力開発支援

job tagを使った支援の事例を紹介しています。



50代女性

長年、事務として勤務していた。PCは簡単な入力程度しか使ってこなかった。年齢もあり、再就職難しいのではと思っていたため、この先、どんな職業に就けるか、幅広く検討したいと考えていた。

11 経験の棚卸を行うことで、「経験したこと」、「強み」を整理・自覚し、自信を持つことができた事例

課題

「簡単なことしかやってきていないので活かせるスキル等はない」と自信がなかった。

対策

求職活動

求職ガイド

- ・ ワークシート3 職務経歴
 - ・ ワークシート5 保有するスキル・能力①
 - ・ ワークシート6 保有するスキル・能力②
 - ・ ワークシート7 アピールポイント
- を記入してもらい、一緒に確認した。

工夫

経験・能力を棚卸するため、求職ガイドに沿って、経験した職業の職業情報ページを見ながら、ワークシートに記入してもらった。

効果

最初は「長年同じ事、簡単なことしかしてこなかった」と話していたが、一緒に経験の棚卸をすることで、実は多様な経験・業務をしてきたということを整理でき、さらに、別の職業で活かせる能力があることも自覚できたことで、自信が持てた様子だった。

12 経験した業務は一般的にどういったレベルの人が行う業務だったのかを確認したことで、自信を持つことができた事例

課題

経験してきた事務系職種において、自分が世の中でどの程度通用するのか分からなかった。

対策

能力開発

職業能力チェック

経験した職種の職業能力チェックを下のレベルから川順に行ってもらった。

工夫

事務系職種には、厚生労働省の定める「職業能力評価基準」というものがあり、一般的な能力水準がレベルごとに策定されていることを伝えた。

効果

エントリーレベル、レベル1の業務について能力チェックをしてみたところ、できることが多く、自信に繋がった様子だった。

(注) 本資料に記載の「事例」は、類似事例を基に再構成しています。

3. 2 事例⑬⑭：職業理解・応募・面接支援

job tagを使った支援の事例を紹介しています。



60代男性

職場の人間関係が理由で転職を希望。製造業の営業だったが、膝をケガしてしまい、できる仕事に限られていた。シニア向けの契約社員・パート・アルバイト等で働きたいと考えている。

13 身体的条件を軸に職業を探すことができたことで、前向きに求職活動に取り組めた事例

課題 膝をケガしているため立ち仕事ができず、座り仕事を希望していた。

対策

職業
検索

仕事の性質で検索

「重視する仕事の性質」の「身体・物理的制約」で「座り仕事」を選択し職業を検索した。

工夫

検索結果が多数出てしまったため、「さらに組み合わせて検索する」で、**経験した業界（産業）**を選択しさらに絞り込んだ。

効果

足を悪くしてから別の業界に行くことも覚悟していたが、**経験した業界の中で身体的に負担が少ない職業もあることを知り求職活動に前向きになった。**

14 応募・面接・雇用契約についての知識をつけることができた事例

課題

転職活動の経験がないため、**応募・面接・雇用契約（労働法）等の知識がなかった。**

対策

求職
活動

求職ガイド
知って役立つ労働法

求職ガイドに記載の応募書類の作成、面接についてのアドバイス、知って役立つ労働法へのリンクを案内した。

工夫

内定をもらった際にも、**企業からの提示条件は労働法と照らし合わせてよく確認するよう伝えた。**

効果

マナーなど、**応募・面接にあたって気を付けるポイント等を事前に知る**ことができて良かったとのこと。

3. 2 事例⑮⑯：自己理解支援

job tagを使った支援の事例を紹介しています。



30代女性

職業選択に対する自己肯定感が低下中であり、これまでとは異なる職業への転職を希望していた。

15 仕事の内容をイメージしながら職業興味検査を行うことで、ポジティブになり自己肯定感が上がった事例

課題 自己肯定感が低く、自己理解ができていなかった。

対策  **職業興味検査** 職業興味検査を一緒に実施した。

工夫 入力から一緒に実施し、入力時には、**冷静に自己俯瞰すること**を意識してもらった。

効果 興味検査の質問内容を一緒に掘り下げながら実施することにより、イメージすること自体が**ポジティブ感情を刺激した**様子で、「そう、そう。私はこういうことが好きだったの」という発言が表れ始め、**自己肯定感に対する変化**が見られた。

16 仕事の性質の項目を一つひとつよく考えることで、不得意だと思い込んでいたことが、本当はそうではないと気が付いた事例

課題 自分の得意、不得意が理解できていない。

対策  **仕事の性質で検索** 仕事の性質で検索を一緒に実施した。

工夫 自信喪失傾向に対し、**本当にそれが苦手なのか**を考えてもらうため実施した。

効果 初めは「避けたい」項目に沢山チェックを付けそうになっていたが、**ひとつひとつよく考えてもらう**ことで、**苦手なものが少ない**ことに気が付いた。
(職業興味検査・仕事価値観検査の後に実施したことも影響したと思われる。)

3. 2 事例①⑧：自己理解・職業理解支援

job tagを使った支援の事例を紹介しています。



40代男性

同じ仕事をずっと続けてきたが、解雇され、その後は転職・退職の繰り返しで、定着できていなかった。

17 職業興味検査結果を基に面談を行うことで、性格や前職の退職理由などを冷静に確認でき、内的理解・ラポール形成に効果があった事例

課題 自己理解ができていなかった。

対策  **職業興味検査** 職業興味検査を一緒に実施した。

工夫 質問項目への回答や検査結果の閲覧を一緒に行い、利用者から**得意、不得意や職業へのイメージを聞き出す**ようにした。

効果 自身のことが文章化された検査結果を目にすることで、**冷静に自分を見つめなおす**ことができた。職業興味検査の結果を基に、自分の性格や、解雇された会社に抱いていたネガティブな気持ちの確認、転職先の企業で退職を決めた経緯を改めて確認することができた。また、**内的理解、ラポール形成**にも効果があった。

18 興味のある職業を見ていくことで、様々な職業の入職への難易度を理解し、現実的な転職ができた事例

課題 就労先の職種についての方向性が定まっていなかった。

対策   **テーマで検索 職業情報** 興味のあるテーマで職業を検索し、職業情報を閲覧した。

工夫 具体的な業務内容のイメージを持ってもらうため、テーマ別で検索した職業について実際に働いている場面を紹介している動画を視聴してもらい、「タスク」や「就業するには？」等を説明した。

効果 興味を持った職業を一緒に見ていくことで、**次の企業で定年まで働きたいということがはっきりした**。（仕事内容よりも正社員として自宅近くで働きたい。仕事内容よりも年収を優先することが明確になった。）専門的な職業の職業情報を閲覧していたが、専門的な職業に未経験で就くためには、習得するまでに1年～3年程度掛かり、資格を取得する必要もあることを理解した。転職を繰り返さないために、技術の習得が少なく、軽作業に近い工場内作業の求人を見つけ、**就職内定へと結びついた**。

(注) 本資料に記載の「事例」は、類似事例を基に再構成しています。

3. 10 事例①9：自己理解支援

job tagを使った支援の事例を紹介しています。



20代男性

第2新卒としてのパート・アルバイト転職を希望しているが、仕事経験が少なかった。

19

- 興味関心を再確認することで、好きなことを仕事にしたいという意欲を向上させた事例
- 職業を閲覧する際に支援対象者の反応を見ることで、興味を持っている職業および好き嫌いまで、把握することができた事例

課題

就きたい仕事のイメージが明確になっていなかった。

対策



職業興味検査

職業興味検査を一緒に実施した。

工夫

職業興味検査で提示された様々な職業について、具体的な仕事の内容を動画で確認しながら**利用者の反応を見る**ことで「興味関心のあること」、「出来そうなこと」を把握した。

効果

好きなことを仕事にすることを諦めていたが、興味関心を再認識することで、少しでも**好きなことに関われるようにしたいという意欲**が出てきた。また、検査結果により、多くの職種が提示されることから、利用者が興味を持っている職業および好き嫌いまで、把握することができ、**支援者が支援対象者を理解するためのツール**として有効だった。